

令和元年五月吉日初版作成

正しき統一の姿

高嶋善三郎

目次

- 統一は無心な状態を目指す・・・・・・・・・・・・・ 3
- 守護の神霊に対する感謝が基本・・・・・・・・・・・・・ 3
- 統一は心と姿勢とが溶け合う・・・・・・・・・・・・・ 3
- 正しい姿勢の在り方・・・・・・・・・・・・・ 4
- 統一中に現われる現象・・・・・・・・・・・・・ 4
- 統一には三つの型がある・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 六つのタイプがある知性型・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 二つのタイプがある霊的型・・・・・・・・・・・・・ 6
 - この身のままの姿で霊化する肉体消滅型・・・・・・・・ 7
- 生かされている生命そのままを現わす・・・・・・・・ 7
- 統一のやり方のひとつの例・・・・・・・・・・・・・ 8

- (付記)
統一行と神聖目覚めの印の効果・・・・・・・・・・・・・ 9

お願い

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。例えば、この点について分かりにくいとか、どの点が心に響いたとか、新しい疑問があるなど、何でも結構ですので、お聞かせください。また、送られてきた資料が次回以降不要の場合は、次のケータイのSMSか、アドレスにご連絡ください。

(ケータイ) 09033466619

(アドレス) zensan@peach.ocn.ne.jp

統一は無心な状態を目指す

統一の仕方について故村田正雄長老導師のテキストにもとづいて見てみましょう。

●統一は、遠い過去から永遠の未来へと生き続けゆく、私たち人間の真実の姿を見出すことである。従って、通って来た道がそれぞれに異なるように、皆個人差がある。だから「あの人に出来て、私に出来ない」と悲観することはない。それぞれの過去世の修行によるからである。

●そこで統一に一番大切なことは、生れる以前から死後の世界までも、守り続けて下さっている守護神様、守護霊様のご加護をよくよく心にとどめて、常に感謝申し上げるとともにそのご守護のみ手の中に任せきることである。そこから真の救われが始まるのであり、その時その人は真の救われの中にいる。

●魂の親様の手に帰り着いた時は、幼児の如く安らぎと幸せを感じる。その時の心を「無心」という。無心とは心のない、という意味ではない、心に把われがない姿をいう。

●無心は裸心に通じ、自由自在心となって、計り知れない大きな働きをするものである。その最たるものが世界平和の祈りであり、永遠の生命を教えられてゆく道である。

守護の神霊に対する感謝が基本

●統一とは、神（本心）と一体である生命を宣（の）りだすことであり、正しく神仏に向かった心から始まるものであるが、その深さ、高さによって、その統一の高さがきめられてゆくものである。それを強く意識すると、意気張り、自力となるので、背後で守って下さっている守護霊、守護神様をお願いして、ふんわりと肩から力をぬくような気持ちで統一に入るとよい。

統一は心と姿勢とが溶け合う

●統一の三つの基本は正しい心、正しい姿勢、正しい統一。
正しい心 神仏に対峙した心、真向かう心。神仏を思う心は本来心、本心と一体であるから、統一はまず神仏に正しく向かった心から入るのである。

正しい姿勢 正しい心から、おのずから生まれる。衿を正す整った姿勢が生まれてくる。姿勢は心の有り方の現われで、正しい姿勢は魂の昇華の基本となり、昇華には各種の相（すがた）があるが、それは正しい姿の中よりおのずから生まれ出するもの、心と姿勢は車の両輪の如く、深い統一にはおのずと一つに溶け合ってしまうものである。正しい心、正しい姿勢の統一を繰り返すうちに、その姿勢すらもなく、光一元の世界にと昇華出来得るものである。型を超えるには、まず正しい姿勢から入るこ

とが肝要である。

正しき統一 世界平和の祈りの中から神と一体である自分を見出すことであり、平和の祈りを繰り返すうちにおのずと内にある本心が輝き出して個人も人類も救われてゆくのが正しき統一の姿である。

正しい姿勢の在り方

●統一する時の体の部位の在り方等は次の通りです。

首の在り方 首は心の相（すがた）を現わし、心暗く悲しい時は前に垂れて下を向き、把われ多き心は左右に傾き、心の落ち着きを失った時は揺れ動くものである。心明るく正しい時は真直ぐに伸び、崩れず、統一中は引き挙げられるように感ずるものである。首は天に突き上げるようなつもりで、真直ぐにすることがいい。

背筋の在り方 背筋を垂直に伸ばすように心得ること。それには、腰を伸ばすようにすると、自然と背筋も伸びる。そうすると、背筋と膝が直角になる。

あご あごは軽く引く心地になる。

手の位置と印 印は気の流れを結ぶもので、両手の親指と人さし指で丸をつくり、それを左右に組み合わせる。これを如来印という。

眼 眼は軽く閉じて、現象界を見ない方がよい。見ると見たも

のに把われて、統一の妨げになりやすい。半眼、開眼の統一もあるが、これは特に上根の人たちのなさることで、普通は眼を軽く閉じておくことがよい。

腰と胸 心が安定すると、腰もおのずと定まり、泰然の相がおのずから備わる。（巖が大地に深くどっしりと腰を下ろしている姿）胸は軽く張る気持ちがいい。

座法 結跏趺坐は、仏教において円満安座の相として、禅定統一に欠かせぬ座法であるが、私たちは正座（静座）を取る。しかし、結跏趺坐の出来る人は座法に従ってやってもよい。上半身安定する座法でよい。正座の場合、男性は両膝の間にこぶしが四つ。女性はこぶしが二つぐらい入るぐらいの間隔にあけて座る。

呼吸法 正常の場合には呼吸は心の姿を現わしている。心が乱れているときは呼吸も乱れがちとなる。まず呼吸を静める。統一に入ると、自然と深く長い呼吸となってくるものである。深い呼吸、長い呼吸は、長が生きに連なるといわれている。ヨガでは四（呼吸）十六（止める）八（吐く）一・四・二の比率とか七・七・七であるように教えている。正しい統一に入る時は、おのずからその人に合った呼吸法に入っているものである。

統一中に現われる現象

●統一中に起こる動作・現象とその背景は、次のとおり。

ゆれる 上半身が前後左右にゆれる。肉体にまつわる想念が浄化されようとして、消えてゆく時におのずとこのような動きが起こる場合がある。

かがむ 前にかがむ、横に傾く、これらもゆれる場合と同じ。

熱くなる 額、後頭部、首、など肉体のある場所が急に熱くなる時がある。肉体は天よりの光の受け場であり、横の現われの基となる。誰でも肉体には光の流れをさえぎるヒズミが多少はあるもの。そのヒズミが修正されようとするときの現象である。

寒くなる 統一に入る前後から、急に寒さを感じる場合もある。世界平和の祈りは、守護の神霊たちと、私たちの縁者たちとが一つの場を中心として光輝くもので、集まってきた縁者たちの住む階層が寒い冷え切った世界であると、その寒さを感じる時があるのである。しかし、祈り続けるうちに、光明によって次第に消えてゆくものである。

悲しくなる 寒くなる場合と同じようなもので、縁者の悲しみの想念が映って、浄まってゆく時に起こる現象である。

嬉しくなる 嬉しくなる現象には、幾通りもの内容に分かれるが、大別すると、一つは、一緒に統一昇華して教えられ救われた縁者の喜びと感謝、もう一つは、本人の守護の神霊が救世の大光明の中で大きく昇華し得た喜びが、肉体に伝えられてきて、表面意識では何かわからないかが、嬉しくてしょうがないというものである。

涙が自然と出る 嬉しくなる場合と同じであり、統一に参加し

た縁者たち（霊魂）の喜びと感謝が涙となってでてくるものである。

眠たくなる 統一中眠ってしまうのは、湧き上がってくる雑念に想いが落ち込んだ時に起こる一つの現象で、守護の神霊へ感謝の想いを向け続けるうちに、消えてゆくものである。

統一には三つの型がある

●統一行は厳密に言えば各個人ごとに違った型があるわけであるが、大きく分けると、次の三つの型がある。(1)知性型(これは男性に多い)(2)霊的型(これは女性に多い)(3)肉体消滅型。こうした型があるということを知っておくと、自分の統一への一助となり、把われから解放される手立てともなる。

六つのタイプがある知性型

●(1)知性型には六つのタイプがある。

①何度も統一しても見えも聞こえもしないが、統一すると気分がスーッとしてよくなる。いろいろな雑念がいつの間にか消えてしまっていて、それすら気づかないというタイプ。

②統一を何年もやっているが、その都度毎に雑念が出てきて困る。自分の統一はこれでよいのかと、自分の統一にいつも疑問を抱くタイプ。自分の統一に疑問を抱くのは、肉体にまつわる

想念が消えてゆく姿が観じれようと、これに把われることなく、本心の座に統一している自分を硬く信じて、冷静に消えてゆく姿を見送ることが大切である。それと、自分は肉体と同時に、幽界、靈界、神界にそれぞれ体をもって働いていることを知ることである。

③統一に入ると、見えも聞こえもしないが、顔や上半身の全面が火気にあてられたように温かくなってゆくのを感じる。そしてその温かさの中に、いつの間にかと溶け込んでしまっている自分すらもわからないタイプ。

④首、肩、関節部、頭の芯、腹、足や腰等、その人の弱い箇所痛みを感じるタイプ。③④のタイプは、光りによってヒズミ（誤てる想念）が修正されていく時に起こる。

⑤統一と同時に上へ上へと昇ってゆく、昇るほど気が澄んで透明になるような、素晴らしい統一に入るタイプ。信仰心歴の古い人はこのタイプが多い。

⑥統一に入ると同時に自分の体（霊体）が横に大きく大きく広がって、どこまで広がるかわからないほど大きく広がるタイプ。

二つのタイプがある霊的型

●(2)霊的型には、二つのタイプがある。

①統一に入るといろいろなものが見えたり、また聞こえたりする。そして肉体身から霊、幽界に簡単に移行が出来る。その途

上の世界を観たり、感受したりするが、それにそのまま把われてしまうことが多いタイプ。この型は、霊的型の代表といってもよいほど多い。霊現象に把われてしまい、ついには常識を外す結果になってしまう。

②自分の潜在意識を具現化して、霊的に感受したと錯覚に陥りやすいタイプ。

霊的型の人は、知性型と全く対照的に直感力が強い。また人の好き嫌いが目立つ欠点がある。直感途上の世界を見または認識するもので、途上の世界はある意味で、常識外れとなることが多い。幽界の波の中にいる時は、嫌な雰囲気醸し出すものである。またおおよそ見えたり聞こえたりするのは、その人の幽体霊体を感じるのであり、幽体霊体の浄化の度合いに相応して、その受場に映しだされてくる。

この型の人は、特に常識外れないように、見えても聞こえても、相手がどう受けとってくれるかをよく常識に照らして、言行することが一番大事。いかに見え、聞こえても、すべての霊現象を消えてゆく姿として、全否定することである。そうすると、悪いものは消え去り、真実のものが残る。禅宗では、座禅修行中に、こうした危険から修行僧を守るために、見えるもの聞こえるもの一切を、魔境、外道と断じて、全否定することを最も強く教え込むのである。

統一中の霊現象、神秘体験は誰も温存したいものであるが、それに把われる間は、その階層にとどまることであり、みずか

ら本心への道を塞ぐ結果となって、魂の昇華を妨げる。現われのすべてを全否定すれば、また一段と高い階層へと進化向上するのである。

この身のままの姿で靈化する肉体消滅型

●(3) 肉体消滅型は、前生の修行の結果によるもので、見えも聞こえもしないが、統一すると気分が澄んで靈妙な波動と変わり、深い長い呼吸となり、昇りもまた広がりもないが、肉体身が次第に靈妙微妙な波動に変わり、この身のままの姿で靈化する型をいう。他から靈眼で見ると、本人は何も気づかなくとも、靈妙華麗な素晴らしい靈波動を四囲に放射しているのである。この型の最たるものが役行者である。そして自分の肉体を屍化仙として地上にとどめず、肉体波動を靈波動に完全に替えてしまった。偉大な靈力を発揮したのである。この流れを汲む人には肉体消滅型の人が多い。

生かされている生命そのままを現わす

以上をまとめると、遠い過去から通って来た道がそれぞれに異なるように、皆個人差がある。だから「あの人に出来て、私に出来ない」と悲観することはない。まず統一とはどういうものか。どういう現象が起こるのか、自分の統一はこういう型

なのかを知る。そして統一が一番大切なことは、生れる以前から死後の世界までも、守り続けて下さっている守護神様、守護靈様のご加護をよくよく心にとどめて、常に感謝し、そのご守護のみ手の中に任せきることと言われています。そこから眞の救われが始まるのであり、その時その人は眞の救われの中にいる。魂の親様の手に帰り着いた時は、幼児の如く安らぎと幸せを感じられる。その時の心を「無心」という。無心とは心に把握されない姿をいう。無心は裸心に通じ、自由自在心となって、計り知れない大きな働きをし、永遠の生命を教えられてゆくのである。そして世界平和の祈りの中から神と一体である自分を見出すことであり、平和の祈りを繰り返すうちにおのずと内にある本心が輝き出して個人も人類も救われてゆくのが正しき統一の姿であるということになります。

肉体界に降りて来て幾転生も体験してみて、分別心しかないと思ってしまった私たちにとって、統一は不慣れで、慣れるまで時間がかかるものです。これを繰り返しているうち、神（創造主）と一体である自分（永遠の生命）こそ本来の自分だと気づくのです。そうすると、自分のチャクラが天地をつなぐ一本の光の柱として繋がりが、この肉体界の不安恐怖をこの光の柱を通して光に還元できるようになるのです。それは不安恐怖も元々神のエネルギーでできており、ただ波動が遅いだけなので、私たちの意識により、その想念を高速の神のエネルギーの中に

入れて高速化してしまえば、光に還元されるのです。分別心の創り出す世界の中に生きながら、この分別心に把われない、常に感謝と喜びに包まれた神の生き方ができるようになるのです。統一の大切さをあらためて知るべきでしょう。

ここで注意すべきことがあります。それはどのような神意識も守護の神霊への感謝による無心になった結果なのであり、そのプロセスを経ないで、直接神意識の深まりを求めては、神意識は深まらないことを知るべきでしょう。

老子講義八講（聖を絶ち智を棄てれば）によると、如何なる高い境地でも、立派な理想でも、そうなるうという想いがあるうちは、そう成り切っていないのだから、そこにはそれだけのマイナス面がでてくる。そういう一つ一つの形に人の想念を執われさせる。素を見（あら）わし、つまり、何一つ飾りのない、心に何の想念もない、生かされている生命そのままを現わし、樸な素直な生き方をすればよいと、言い換えれば無心になることがなによりも大切であると老子は教えてくれているのです。さらに別の言葉で言えば、そういう生き方ができるようになるには、常に私という自己を少なくし、欲を寡（すく）なくしなさいと言われているのです。

統一のやり方のひとつの例

これらのことを、念頭において、自分の統一方法を工夫していけばよいと言えます。

私が試行錯誤の末、現在行っているやり方を紹介します。まず呼吸を整える。背筋を伸ばし、7秒で息を吸い、7秒息を止め、7秒かけて息を吐く。これをするためには、昌美先生が指導されている呼吸法である、丹田に意識を置いて下腹は常にへこませて横隔膜を上下に動かす呼吸法で行います。この呼吸法を意識してやっているうちに慣れて、呼吸秒数を意識しなくとも、スムーズに行えるようになります。この時守護の神霊にただひたすら感謝しながら、すべてのチャクラをコントロールする、叡智のチャクラに意識を置きます。これを続けて行っていくと、そのチャクラが振動し始め、次に頭頂のチャクラも振動し出します。そうすると、光が頭頂のチャクラにおいて来て頭頂や叡智のチャクラが輝く姿をイメージします。繰り返しやっているうちに、統一中首が引き挙げられるように感ずるのです。そしてハートチャクラが振動し始めます。時間はすぐに経っていきます。心がすっきりしたら終えます。統一時間は、せいぜい1時間ぐらいにしています。この統一を続けることにより、肉体の60兆あるという細胞一つひとつが輝いていくとイメージしています。

また、どうしても、雑念を切ることが出来ない時は、呼吸法に集中するか、「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」言霊を心の中で唱えることも、一つの方法でしょう。

(付記)

統一行と神聖目覚めの印の効果

統一行の位置づけについて教えてください。特に神聖復活目覚めの印との違いについてお願いします。

この問に対する答えは、『統宗教問答』の問175「統一がよくなる、深くなるのが精神的にも現象的にも、よくなることと思いますが、どうしたら統一技術が最も短時間で上手になるのでしょうか、教えてください」がヒントになります。

そこで五井先生は「統一が上手くなるのは、一言にいえば、素直に神様と想えるようになることと、何事も神様の愛の現われであると信ずるように思いを持ってゆくことなのである。

そして統一とは、人間の業想念、様々の想いを一つに統(す)べることであり、このことは人間の業想念、様々の想いを自己の本心の中に一つにまとめてゆくことである。本心の中には、悪いもの、悪いことが、一切無い。完全円満であり、大智慧、大愛で満たされている。その中に一切の想念を統一してしまうのであり、統一したことにより、そこから生まれてくる智慧能力によって開運もし、安心立命することは、あたりまえのことである。そして雑念が起ってきたら、自己の想いで消そうと思わないこと。すべての想念を追わないということ、消そうと力まないことがよい。どんな雑念も放っておけば必ず消え去

ってゆく。力まないということは統一にとって最も必要な心構えである。

また、どのどんな統一修行でも、自力だけの統一ということとは絶対できない。必ずその人の守護の神霊の援助によるのである。援助というより、守護の神霊が統一させてくれるのである。だから統一にはまず守護の神霊の加護を願うことが必要である。」といわれています。

一方神聖復活目覚めの印は、組めば宇宙神の光をこの身に受け、この身を通して光をこの肉体界に放射し、自ら神聖に目覚め、自己確立しながら、まだ神聖に目覚めていない人々のために目覚めを促すと言われています。

統一行と神聖目覚めの印について、どの点が違い、どの点が同じなのかを見てみましょう。

違いはまず開始された時期で、それにより異なる点がありますが、天と地をつなぐ光の柱が形成される点は同じです。

五井先生の示された統一行は、五井先生が世界平和の祈りを提唱された時に始まり今日まで実践されてきていますが、神聖目覚めの印は、富士聖地が五次元に次元上昇した時にこの地上に降ろされ、実践されてきています。

統一行が今まで分別心しか存在しないと思っていた私たちが守護の神霊の援助により、神と一体である本心が本当の自分であることに気づき、自分のチャクラが天地をつなぐ一本の光の

柱として繋がり、形成されていくのに対して、神聖目覚めの印は宇宙神に意識を向けて印を組めば、宇宙神の光をこの肉体界におろす光の柱を無条件に形成されていると言えます。神聖目覚めの印は、私たちが宇宙究極の一筋の光を降ろすご神事を通して2010年私たちのチャクラが開かれたことにより可能になったとも言えます。

ここで、注目すべきは、統一行でなされている、人間の業想念、様々の想いを自己の本心の中に一つにまとめてゆくことや何事も神様の愛の現われであると信ずるように思いを持ってゆくことなどによって光を降ろせます。しかし神聖復活目覚めの印もあわせて組めば、宇宙神の光により円滑に光を降ろすことができ、より神意識を深めることが可能になるといえます。

一方神聖復活の目覚めの印は、組めば宇宙神の光を無条件に降ろせるが、人間の業想念、様々の想いを自己の本心の中に一つにまとめてゆくことを怠れば、せつかくの光を自分のため、世のために役立たせることに限界があるということです。

それは何故かといえば、降ろされる宇宙神の光は、神意識が深まるにつれ、強く多量になります。人間の業想念を制御できなければ、神意識を深めることも限界があるからです。

天と地をつなぐ光の柱という言葉で、思い出されるのが、五井先生がご存命中、私たち会員に対し、困った時、我が名を呼ぶことを許されたことです。即ち、五井先生の天と地をつなぐ

光の柱を使用させて頂いていたのです。さらに人類の業想念も引き受けてくださっていたのです。

その当時聖ヶ丘道場で行われた統一会には、できる限り参加させていただきました。日常起こっていた色々な苦悩は参加後、すべてが消えてゆき、すべてが輝いて見え、参加させていただいた有難さを感じ、喜びに包まれて帰宅したことを思い出します。

ところが実は、五井先生は肉体的苦しみを通して私たちの代わりに業想念を浄めてくださっていたことが、昌美先生から聞かされ、五井先生のご慈愛の偉大さを知りました。

五井先生のご帰神後、自分がどれだけ五井先生の恩恵に浴していたかを痛いほど知らされました。自分が五井先生のみ教えを心から理解していなかった、神意識を深めていなかったことを恥じました。

その後昌美先生と天界の五井先生により、「我即神也」「人類即神也」「神聖目覚めの印」や呼吸法が降ろされ、それらによって私たちも天と地をむすぶ光の柱を形成できるようになりました。過去を知っている私は、極めてありがたいと思った次第です。

私たちも天と地をむすぶ光の柱を形成できるようになったとはいえ、まだ細い光の柱であるかもしれません。しかしそのうち多くの人たちにお役に立てる太い光の柱になることでしょう。なぜなら、その方法をはっきり確認できたのですから。